

# SDGs未来都市等進捗評価シート

2018年度選定

岡山県真庭市

2021年8月

**SDGs未来都市計画名**

自治体SDGsモデル事業  
又は特に注力する先導的取組

岡山県真庭市 SDGs 未来都市計画

持続的発展に向けた地方分散モデル事業

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

## (1) 計画タイトル

岡山県真庭市 SDGs 未来都市計画

## (2) 2030年のあるべき姿

木質バイオマス等の再生可能資源によるエネルギー自給率100%達成、有機廃棄物を利用した環境保全型農業から生まれた農産物の地産地消などにより、市外に流失していたお金が市内で循環する「回る経済」が確立。（環境⇄経済）

木の香りあふれる中央図書館を拠点とした生涯学習、木造の小学校・こども園等を拠点とした郷育により、都市の「効率」より農山村の「生活の質」を重視する若者、関係人口、移住者が増加し、彼らが地域に創造される新産業の担い手となる。（経済⇄社会）

下流の都市住民、漁業者等と連携した旭川の環境保全活動等を通じて、持続可能で豊かな環境が創出され、地震などの大規模災害の少なさとあいまって、安定・安心な真庭ライフスタイルが実現。（社会⇄環境）

以上のような自律的好循環の形成によって、真庭市は、東京一極集中に伴う人口減少や地域経済の衰退といった負の連鎖を完全に断ち切り、日本の地方・農山村の持続的発展のモデルとなる。

## (3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



## (4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	バイオマス発電所の増設【8.2、8.5、8.9、11.6】	2018年7月 1 基	2020年 1 基	2030年 2 基	0%
2	小・中学校でSDGsを学ぶ実践活動の実施【3.7、4.7】	2018年7月 0 校	2020年 全 校	2030年 全 校	100%
3	地域エネルギー自給率100%【6.6、7.2、12.5、12.8、15.2】	2018年7月 32 %	2020年 33 %	2030年 100 %	1%

## (5) 「2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

## 【指標ごとの進捗状況等】

・第2発電所設立検討に向けた勉強会を複数回開催。既存の発電所と同規模を想定し、燃料材の必要量や人材確保などの課題の洗い出しを実施した。増設するためには未利用材や製材端材だけでは燃料材は不足するため、広葉樹の活用等も視野に入れ検討する必要がある。なお、2021年度中に市内にて民間企業による5,000kwhの発電所が稼働予定である。

・市内全校で、SDGsの考え方と関連させながら、教科指導や総合的な学習の時間の授業を実施している。各学校の取組の方向性を一定程度定めるための副教材の開発が課題であり、2021年度SDGsの教材及びカリキュラム作成へ向けて準備を始めている。

・電力の需要を抑えるため、市民へ省エネ、脱炭素型ライフスタイルの実践を促すため「クールチョイス（賢い選択）」啓発を行っている。

また、地域マイクログリッドとして災害時に地域内で電力を自給できるかの検討を行っているとともに、広葉樹・雑木林を活用した再生可能エネルギーへの転換を様々な関係者とともに検討を行っている。

## 【その他進捗状況等】

・2020年度より市内の取組をSDGsのゴールごとに見える化するため、4半期ごとに取組状況をとりまとめHPへ掲載を開始。2021年度からはターゲット番号も追加。

・ステークホルダーとして「真庭SDGsパートナー」の登録を進めており、現在189団体・15個人が登録。真庭SDGs円卓会議や真庭SDGsミーティングなどへ参画いただいているところ。

・これらの取組を市民活動としての具体アクションへどうつなげるかが課題であり、2021年度テーマを「アクションへ」として取組推進中。

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2018年～2020年

## (1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2020年目標値	達成度(%)
1	①「木を使い切る真庭」事業	木質バイオマスによるCO <sub>2</sub> 削減量	2017年3月 101,000 t-CO <sub>2</sub> /年	2018年 102,379 t-CO <sub>2</sub> /年	2019年 89,920 t-CO <sub>2</sub> /年	2020年 114,851 t-CO <sub>2</sub> /年	2020年 103,000 t-CO <sub>2</sub> /年	112%
2	②「有機廃棄物資源化」事業	バイオ液肥を活用する農地面積	2018年3月 15 ha	2018年 17 ha	2019年 18 ha	2020年 16 ha	2020年 18 ha	33%
3	③「行ってみたいくなる・住んでみたいくなるまちづくり」事業	観光客数	2016年度 3,372 千人/年	2018年 2,936 千人/年	2019年 3,237 千人/年	2020年 2,303 千人/年	2020年 3,400 千人/年	68%
4	④「未来を担う人づくり（人材育成）」事業	岡山市と連携したESD（環境学習）への参加人数	2017年度 522 人/年	2018年 528 人/年	2019年 560 人/年	2020年 20 人/年	2020年 600 人/年	3%
5	⑤効果検証と、検証による今後の政策の検討	AIを活用した将来の真庭市の経済・社会状況の分析の実施	年次 無	無	無	無	市内各地で活用	—

## (2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

・2020年12月に第2期真庭市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定を実施。引き続き人口減少に一定の歯止めをかけ、年齢構成のバランスの維持につなげていくことを目指すこととしている。

・2021年度に第1期総合戦略の評価検証を行ったところ、人口動態において社会減が減少傾向となっており、年齢構成のバランスも維持されていることがわかった。

・これらは、第2期SDGs未来都市計画の自律的好循環形成へ向けた制度の構築等へ記載の「地域経済が活性化していくことで豊かな社会生活が実現し、人の交流が促された」ことによるものとも考えられる。

・引き続き、好循環促進へ向けた「真庭SDGsパートナー制度」による取組への賛同の輪を広げ、「真庭SDGsミーティング」や「真庭SDGs円卓会議」などの場を創出し、アクションを起こしていくことで、地域経済の活性化や豊かな社会生活の実現へつなげていく。

## (3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

## 【指標ごとの進捗状況等】

・CO<sub>2</sub>削減量は順調に伸びている。その理由の一つには、バイオマスボイラ設置に関する補助金について、農業用ボイラから事業用ボイラに補助対象を拡大するよう交付規定の見直し等を行った結果、牛舎へのボイラ設置を実施した企業も現れ、反響があった。引き続き補助金の周知を図りバイオマスを促進していく。

・バイオ液肥の認知度も上がり、バイオ液肥活用の需要が伸びてきている。バイオ液肥については、農地利用と、バイオ液肥スタンドへの家庭菜園用と2種類の用途があるが、バイオ液肥スタンドへの供給量が増えてきているため、農地用の液肥が不足することがあり、農地面積の拡大が難しくなっている。（面積拡大には貯留能力の増強が必要となる。現在は実証プラントで運用しており、本格プラントを2024年度に稼働させる計画としている。そうすれば貯留能力の増強が可能。）

・観光客数は、新型コロナウイルスの影響により、前年より約93万人観光客数が減少したが、今年度は前年度に比べ徐々に観光客が戻ってきている。今後の観光客数の増加に向けて、2021年7月にオープンした「GREENable HIRUZEN」が観光拠点となるように魅力化を図っていくとともに各地域ごとに観光資源の掘り起こしを行い、地域の魅力を発信していく。

・人材育成事業については、新型コロナウイルス感染拡大により、ほとんどの事業が中止となった。

・AIによる将来予測について市内各地での活用には至っていないが、AIを活用した将来予測の結果を真庭市の今後の方向性の参考に活用し、2020年度に第2次真庭市総合計画の改訂（2020年12月）及び、第2期真庭市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定（2020年12月）を行った。AI技術の活用についてはデジタル推進の状況を踏まえて今後も検討を進めていく。

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2018年～2020年

## （4）有識者からの取組に対する評価

・バイオマス発電、CLT生産、バイオ液肥活用の事業の推進と技術環境への展開で着実な成果を上げていることは評価されるものの、その相乗的な連携を実現する分野横断型の起業協会のプラットフォームの構築、高齢化社会への対応、地域の自律的エネルギー事業への展開等の議論を円卓会議等で行っている状況が説明されることが望まれる。

・環境—経済の評価指標としてバイオマス発電事業、地域エネルギー自給率に加えて、電力の地域利用や、そのほかの再生エネルギー整備の取り組み、自治体間が連携するエネルギー事業等の検討とその進捗評価の検討を期待する。

## 2. 自治体SDGsモデル事業又は特に注力する先導的取組

## (1) モデル事業又は取組名

永続的発展に向けた地方分散モデル事業

## (2) モデル事業又は取組の概要

経済、社会、環境の三側面がそれぞれが関わり合い、「誰もが暮らしたいまち」、「誰もが活力あるまち」を構築する必要がある。このため、既に取り組みを進めており効果が表れている地域エネルギー自給率100%を目指す取組みを三側面から、さらに推し進めていく。

経済面においては、面積の79.2%を占める森林とそこから生産される木材を活用した木質バイオマス発電やCLTの利用拡大を中心とした木材需要拡大事業や、家庭から出る生ごみ等から作られるバイオ液肥を活用した資源循環・環境保全型の新たな農業を推進していく。またこれらの取組みを観光資源としたバイオマスツアーの促進など、地域資源を結び付け活用することによる循環型の経済（「回る経済」）を確立する。

環境面においては、現在30%を超えている地域エネルギー自給率を高めるとともに、木質バイオマスエネルギー利用によるCO<sub>2</sub>削減や生ゴミ資源化によるゴミの減量化などを含め、地域エネルギー自給率100%に向けた取組みを推進していく。

社会面においては、環境に配慮した取組を進め、それが経済の活性化につながることで豊かな社会生活を実現していくことを目標とする。これらの取組みが本市の目標とする人口減少と減少に伴う年齢構成の偏在の解消にどの程度の効果があるか、また、今後、どのように政策を展開していくことがより有効なのかなどを、大学や研究機関等との連携により、AI等を活用し検証しながら政策に反映していく。

## (3) 三側面ごとの取組の達成状況

取組名	取組内容	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2020年目標値	達成度(%)
【経済】 ①-1 木質バイオマス発電 ①-2 木材需要の拡大 ①-3 バイオ液肥を活用した資源循環・環境保全型農業 ①-4 観光地域づくりの推進	【取組内容】 税法にのっとり公平、公正かつ適正な賦課徴収に努めた。	①個人市民税決算額（現年課税分）	2016年度 1,551,187 千円/年	2018年度 1,574,977 千円/年	2019年度 1,583,566 千円/年	2020年度 1,619,975 千円/年	2020年 1,552,000 千円/年	104%
	【取組内容】 税法にのっとり公平、公正かつ適正な賦課徴収に努めた。	②法人市民税決算額（現年課税分）	2016年度 453,723 千円/年	2018年度 447,736 千円/年	2019年度 420,971 千円/年	2020年度 377,050 千円/年	2020年 454,000 千円/年	83%
	【取組内容】 真庭市観光戦略推進事業費 【事業費等】 事業費：49,786千円	③観光客数（観光客動態調査）	2016年 3,372 千人/年	2018年度 2,936 千人/年	2019年 3,237 千人/年	2020年度 2,303 千人/年	2020年 3,400 千人/年	68%
	【取組内容】 蒜山⇄晴海プロジェクト推進事業 【事業費等】 事業費：17,711千円	④本市への延べ宿泊者数	2016年 234,000 人/年	2018年度 190,996 人/年	2019年 169,429 人/年	2020年度 123,849 人/年	2020年 255,000 人/年	49%

## 2. 自治体SDGsモデル事業又は特に注力する先導的取組

【社会】 ②-1 経済についての学習 ②-2 環境についての学習 ②-3 資源の分別 ②-4 グローバル人材の育成 ②-5 農福連携 ②-6 子ども居場所づくり ②-7 観光客受け入れ体制整備	【取組内容】 交流・定住促進の仕組み構築 【事業費等】 事業費：71,533千円	①本市への1年間の転入者数	2016年度 874 人/年	2018年度 834 人/年	2019年度 894 人/年	2020年度 885 人/年	2020年 950 人/年	93%
	【取組内容】 生ごみ分別事業所の拡大と、ごみ分別の啓発 【事業費等】 事業費：0千円(他事業と合わせて実施しているため不明。)	②SDGsの取組による可燃ごみの減量	2016年度 11,160 t/年	2018年度 10,924 t/年	2019年度 11,083 t/年	2020年度 10,886 t/年	2020年 11,000 t/年	99%
	中学生1人に対して、年1回英検の検定料半額補助(要保護家庭は全額を補助)し、中学校卒業時のCEFR A1程度の英語力を持つ生徒の育成を図る。	③中学生の英語検定受験率	2017年度 28 %	2018年度 28 %	2019年度 26 %	2020年度 18 %	2020年 40 %	86%
	女性の積極的な登用に向け、理事者会において計画的な登用率向上を呼びかけた。また登用率調査により現状と今後の計画整理を実施。	④地方自治法第202条の3に規定する機関への女性の参加割合	2017年度 25 %	2018年度 26 %	2019年度 26 %	2020年度 31 %	2020年 37 %	47%
	【取組内容】 旭川流域ネットワークと連携し旭川の水質調査を実施 【事業費等】 事業費：0千円	⑤岡山市と連携したESD(環境学習)への参加人数	2017年度 522 人/年	2018年度 528 人/年	2019年度 560 人/年	2020年度 20 人/年	2020年 600 人/年	3%
【環境】 ③-1 持続可能な森林づくり ③-2 生ゴミ等の資源化 ③-3 マイクロ・小水力発電 ③-4 防犯灯のLED化	【取組内容】 薪又はペレットストーブ、事業用ボイラの設置に対して補助金を交付 【事業費等】 事業費：1,900千円	①木質バイオマスによるCO <sub>2</sub> 削減量	2018年3月 101,000 t-CO <sub>2</sub> /年	2018年度 102,379 t-CO <sub>2</sub> /年	2019年度 89,920 t-CO <sub>2</sub> /年	2020年度 114,851 t-CO <sub>2</sub> /年	2020年 103,000 t-CO <sub>2</sub> /年	112%
	【取組内容】 生ごみ分別事業所の拡大と、ごみ分別の啓発 【事業費等】 事業費：0千円(他事業と合わせて実施しているため不明。)	②SDGsの取組による可燃ごみの減量	2016年度 11,160 t/年	2018年度 10,924 t/年	2019年度 11,083 t/年	2020年度 10,886 t/年	2020年 11,000 t/年	99%

## (4) 「三側面ごとの取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

## 【指標達成状況のポイント】

- ・観光客数及び宿泊者数、中学生の英語検定受験率、岡山市と連携したESD参加者数については、達成度が低くなっている原因としては、新型コロナウイルス感染症の影響により、真庭市への来訪や、受験や学習機会への参加者の減少や機会自体の中止等によるものである。こうした状況においても、GREENableHIRUZEN (CLTパビリオン等)の供用開始による観光客の集客等へ期待する。
- ・木質バイオマスエネルギー利用や生ゴミ資源化事業の推進に係わる指標 (CO<sub>2</sub>削減量、可燃ごみの減量) については、全体計画の進捗状況でも触れたとおり、木質バイオマス発電事業など一部予想以上の進捗で進んでおり、順調に推移している。
- ・転入者数については9割以上の達成率となっており、域外に向け、真庭の暮らしや、森の活用等の交流プログラムを実施し、より深い関係人口の構築を目指したことによるものと考えられる。市内においては地域間の交流を深めるマルシェや集い等を行い、交流が深まりつつある。引き続き真庭の「おもしろい」を広げることで、Uターンや田舎暮らしに興味のある方の転入につなげていく。
- ・女性活躍の推進状況としては、各委員任期が2～3年のため緩やかに登用率が向上。また、第4次男女共同参画基本計画 (2021～) において目標を40%以上とし、継続的な推進を実施していく。
- ・個人税については、近年、おおむね増加傾向で推移しており、コロナの影響は余り見受けられない。

2. 自治体SDGsモデル事業又は特に注力する先導的取組（三側面をつなぐ統合的取組）

(1) 三側面をつなぐ統合的取組名

SDGs未来集落形成による地方分散型社会・経済モデルの構築

(2) 三側面をつなぐ統合的取組の概要

中山間地域ならではのSDGs未来都市のモデルを構築するため、多様なステークホルダーの連携により、木質バイオマス発電の推進によるエネルギー自給率の向上や木材需要拡大へ向けたCLT等の活用促進を行うとともに、蓄積したノウハウを生かして、バイオ液肥（生ごみ活用）や牡蠣殻を活用した里山里海資源循環農業による循環型の「回る経済」をつくるとともに、市民に分かりやすくSDGsの理念を伝える普及啓発を実施し、市民の誇り（シビック・プライド）の醸成とPRを図る。

- 1 普及啓発事業
  - ・市民主体のSDGs活動の推進
  - ・SDGs未来都市の市外へのプロモーション活動
- 2 モデル事業
  - ・真庭市の永続的発展に向けた将来目標策定のための基礎調査
  - ・SDGs未来集落形成モデル事業
  - ・SDGsの理念に沿った観光メニューの創出
  - ・「木を使い切る真庭」・「有機廃棄物資源化」事業の推進

(3) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果

経済⇄環境	経済⇄社会	社会⇄環境
<p>●木質バイオマス発電について、想定を超える稼働率でこれまで順調に稼働しており、売電収益23億円、木質燃料購入14億円（未利用や産廃処理されていた樹皮等を燃料として活用し処理の負担軽減や新たな価値を創出）など地域への経済効果も大きく、かつCO<sub>2</sub>の削減効果が相乗的に生まれている。また、木質バイオマス発電を核とした「地域マイクログリッド」として災害時に地域内で電力を自給できるかの検討を行うとともに、広葉樹・雑木林を活用した再生可能エネルギーへの転換を様々な関係者とともに検討を行っている。</p> <p>●バイオ液肥については、安定して生ごみ収集がされるとともに、バイオ液肥の認知度も上がり、液肥利用の需要が伸びてきている。生ゴミ活用によりごみの減量がされており、焼却施設の負担軽減につながっている。</p>	<p>●木質バイオマス発電の稼働により、発電所や林業木材業等関連事業へ50人程度の雇用があり、地域雇用の場の創出へ繋がっている。</p> <p>●バイオ液肥の農地利用も順調であり、本格プラントの候補地が決まり、2024年度稼働へ向けて準備が本格化している。また、瀬戸内海のかきから土壌改良材として活用する「真庭里海米」では、資源を有効活用しブランド化を図る取組で農家所得の向上にも寄与している。</p> <p>●「未来を担うひとづくり」のため、小中学校でSDGsについての出前授業を実施しているほか、真庭SDGs円卓会議では、高校生が会議へ参加するだけではなく、司会進行や会場案内を担っていただくなど、地域学によるシビックプライドの醸成により、地元で就職や就農し、経済活動の担い手となるなどの相乗効果が期待される。</p>	<p>●「未来を担うひとづくり」のため実施している市内小中学校等を対象とした出前授業により、教育の中で地域の環境対策を学ぶ機会を創出し、取組の普及啓発を行っている。</p> <p>●「木を使い切る真庭」事業、「有機廃棄物資源化」事業の取組による環境面における持続可能な森林づくりや生ごみの資源化により豊かな自然環境が維持される、持続可能で安全安心な社会生活が可能となることとした相乗効果が期待される。</p> <p>●展開として、岡山大学等と連携し、林業・木材・木造建築教育・研究ゾーン構想として真庭市に研究施設を整備していくことができないか検討が進んでおり、本構想により、専門人材の育成拠点となることで、若者や研究者等の人口流出課題への対応が期待できる。</p>

(4) 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況

No	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2020年目標値	達成度(%)
1	【経済→環境】木質バイオマスによるCO <sub>2</sub> 削減量	2017年3月 101,000 t-CO <sub>2</sub> /年	2018年度 102,379 t-CO <sub>2</sub> /年	2019年度 89,920 t-CO <sub>2</sub> /年	2020年度 114,851 t-CO <sub>2</sub> /年	2020年 103,000 t-CO <sub>2</sub> /年	112%
2	【環境→経済】バイオ液肥を活用する農地面積	2018年3月 15 ha	2018年度 17 ha	2019年度 18 ha	2020年度 16 ha	2020年 18 ha	33%
3	【経済→社会】①個人市民税決算額（現年課税分）	2016年度 1,551,187 千円/年	2018年度 1,574,977 千円/年	2019年度 1,583,566 千円/年	2020年度 1,619,975 千円/年	2020年 1,552,000 千円/年	104%
4	【経済→社会】②中学生の英語検定受験率	2017年度 28 %	2018年度 28 %	2019年度 26 %	2020年度 18 %	2020年 40 %	44%
5	【社会→経済】①インターンシップ受入数	2017年度 6 人/年	2018年度 17 人/年	2019年度 14 人/年	2020年度 10 人/年	2020年 10 人/年	100%
6	【社会→経済】②1年間の新規就農者数	2017年度 12 件/年	2018年度 12 件/年	2019年度 11 件/年	2020年度 12 件/年	2020年 15 件/年	80%
7	【社会→経済】③起業家数	2017年度 12 件/年	2018年度 15 件/年	2019年度 14 件/年	2020年度 11 件/年	2020年 15 件/年	73%
8	【社会→環境】①本市管理の防犯灯LED化率	2017年度 21 %	2018年度 53 %	2019年度 73 %	2020年度 100 %	2020年 88 %	118%
9	【社会→環境】②汚水衛生処理率	2017年3月 61 %	2018年度 66 %	2019年度 65 %	2020年度 66 %	2020年 65 %	126%
10	【環境→社会】①木質バイオマスによるCO <sub>2</sub> 削減量	2018年3月 101,000 t-CO <sub>2</sub> /年	2018年度 102,379 t-CO <sub>2</sub> /年	2019年度 89,920 t-CO <sub>2</sub> /年	2020年度 114,851 t-CO <sub>2</sub> /年	2020年 103,000 t-CO <sub>2</sub> /年	112%
11	【環境→社会】②バイオ液肥を活用する農地面積	2018年3月 15 ha	2018年度 17 ha	2019年度 18 ha	2020年度 16 ha	2020年 18 ha	33%
12	【環境→社会】③：岡山市と連携したESD（環境学習）への参加人数	2017年度 522 人/年	2018年度 528 人/年	2019年度 560 人/年	2020年度 20 人/年	2020年 600 人/年	3%

## 2. 自治体SDGsモデル事業又は特に注力する先導的取組（三側面をつなぐ統合的取組）

## (5) 自律的好循環の形成に向けた取組状況

- ・地域内の多様なステークホルダーの合意形成、交流促進を一層促進するため、「真庭SDGsパートナー制度」を創設（H30年度）し、R3.8月現在、189団体・15個人が登録いただいており、本パートナーを中心に以下好循環形成の場づくりを行っている。
- ・パートナーが構成員となり、市民を巻き込んだ普及啓発及び合意形成の場として「真庭SDGs円卓会議」を開催（R1年度設立）。取組状況の確認やアイデア出しなど実施し、事業展開を検討。
- ・「真庭SDGsミーティング」を実施し、SDGs伝道師を育成するとともに、パートナー同士の連携プロジェクト創出へつなげる。そのツールとして活用できる三側面の強み・弱みが見える団体カードを活用したプロジェクト共創カードゲームも検討中。
- ・上記の活動などを通じてからパートナーによる主体的な行動を促し、地域関係者主体の新たな地域プロジェクトの始動へつなげることを期待。

## (6) 「三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

## 【指標達成状況のポイント】

- ・バイオエネジー利用及び生ゴミ資源化事業については、(3)にも記載の通り順調に取り組みが進められており、地域経済循環を生んでいる。
- ・インターンシップについては、岡山県内の学生等に限定して受入を実施した。目標達成はしているが、コロナ禍におけるインターンシップの受入体制の整備等が今後の課題である。
- ・移住就農、定年帰農を中心に順調に進捗しているが、特に移住就農時の農地、住居の確保が課題となるため、関係団体、他の施策と連携した推進が必要である。
- ・起業数については、新型コロナウイルスの影響により目標数を大きく下回った。また、地域産業振興センター入居での起業数を増やすことも目標としていたが、本年度の入居者はなかった。今後はテレワークの拠点づくりを推進し、街中で事業創出できるシェアオフィスの整備等により、IT系事業で起業する若者も支援する。
- ・転入者については、2(4)記載のとおり、増加傾向となっており、地域別で調べると、転入者が転出者を上回る地域があり、第1期真庭市まち・ひと・しごと創生総合戦略を踏まえ「真庭SDGs未来都市」の推進による人口減対策の政策を推進してきた成果と考える。R2.12月に第2期真庭市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定を踏まえ、R3.3月に第2期SDGs未来都市計画の策定をしており、引き続きSDGsの取組推進をはかり、持続可能な地方分散モデルの構築を目指す。

## (7) 有識者からの取組に対する評価

- ・様々な事業に取り組んでいることが、地域全体の賑わいに繋がっていることが予想できる。そして、この好循環が移住者の呼び込みという成果にまで繋がっており、高く評価できる。
- ・木質バイオマス発電事業を評価するために市民電力、市民ファンド等の需要側、広域連携等の協議とその進捗評価が必要だと思料する。
- ・人材育成、交流の仕組みの評価、環境の評価について従来の事業の延長ではなく、分野横断的な取り組みにつながる教育、先導事業をSDGsの枠組みの中で評価する仕組みの検討と説明が望まれる。
- ・マイクログリッドにつなげる供給の拡大、需要ネットワークの検討が必要である。